

栗山町まちづくり懇談会 議事録

日時：令和4年11月14日（月）18：30～20：25

場所：カルチャープラザ「EKI」

出席者：50人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

- (1) 第7次総合計画の策定について
- (2) 自由懇談

4. その他

○空き家相談窓口チラシ参照

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：墓園墓地の関係。昨日墓地に行ってきた。墓地から1台車が出てきたが、入り口が狭くて出入りしづらい。栗山町の土地ではないという事を聞いてはいるが、せめて車が2台すれ違えるような広さになったり、大きな木を伐採して見通しを良くしたり、土地の所有者に相談して貰えないだろうか。お盆等の込み合う時期は、車2台がすれ違うことすらできず、大変危険だと感じる。新規で事業を行うのであれば、ぜひ整備して貰いたい。

環境政策課長：墓地の関係については、他の懇談会会場でも同じように、入り口等が狭いという話を聞いている。おっしゃる通り、栗山町所有の土地ではなく、別に所有者がいる。なるべく早く対応を進めたいが、コロナの兼ね合いもあり中々所有者と話が出来ていない。今回の計画でも、整備・土地の買収等の費用を計上したいと考えており、改善に向けて土地の所有者の方との交渉を進めていきたい。

町民：先日防災訓練を行った。この計画の中でも、防災訓練の実施、避難マニュアルの作成とあるが、一番大きな災害は地震でないかと考えている。地震が発生した場合、今までのイメージでは津波と同じようにすぐ逃げるのだと考えていた。只、避難所の開設にはある程度の時間がかかるという話も聞いている。避難所設置までの間、町内会では何が出来

るかを考えていたりしていた。その間、ケガをして動けない人等への対応や一時避難所を設けることを防災訓練では想定しているが、そういった対応を行う中で、責任を町内会でどこまで持てるかという問題もある。

いくつかのシナリオの様なものを想定し、町内会での対応等を含めたマニュアルを示して貰えると有難い。発生後 30 分～1 時間の間に町内会では何をしたら良いのか、という事を教えて頂ければと思う。

総務課長：避難所開設には、確かに災害発生から 30 分～1 時間程度はかかると考えている。避難所運営マニュアル（案）は完成しているが、避難所開設までの間のシナリオ等々は出来ていないので、今後検討して提示出来るようにしていきたい。いずれにしても、短時間での避難所開設は難しいため、町内会の皆さんには要支援者にあたる一人暮らしの高齢者の方の支援をお願いしたいと考えている。防災担当で計画を作成し、改めてお知らせしていきたい。

町民：要支援者の方々の避難については、リストを頂いているので町内会でも想定はしている。只、かなり大きい災害になってくると、一般の方々も同じように支援が必要な人が出てくると思われる。その中で、町から金銭的面も含めたバックアップを示して貰えると、何かあった時に危険な場所等で支援をする時にも、町内会としては安心できる。色々なパターンがあり難しいところもあると思うが、更に一步踏み込んで提示して貰えると、イメージがはっきりしてくるのではないか。

総務課長：ありがとうございます。ご意見としてお受けし、今後の計画に反映させていきたい。

町民：先日、北朝鮮から発射されたミサイルの Jアラートが鳴ったが、何も出来ずだった。今の時代は地震だけではなく、色々な事が想定される。そういった時にどうしたら良いか。また、栗山町の方は、町外へ外出する機会も多いと思う。そういった場合の連絡体制が機能するのか、今後の防災訓練でも確認していく必要があると思っている。また、子どもの医療と健康、食について。医療は日赤病院があるから安心している。一方で、食は農家の方が辞めていく中で心配。栗山町の農家さんは、有難いことに良いモノを作ってくれている。また、多く作った場合は無駄にせず、町民に配ってくれたりしている。そういった良いモノを集めて、しっかりとした製品を作れば、市販で売られているモノよりも体に良い製品が作れるのではないかと思っている。そこで出来た地産地消の製品を施設や学校に届けることが出来れば、子ども達に自然由来の食品を食べて貰うことのスタートにも繋がっていく。そういった仕組みが出来るように、食品を加工するセンターの様なものを新たに作って頂けないか。農家を守ることも、もっと良い製品を作ろうという流れ、出来た食材が防災用品として使用出来る等々、様々なことに繋がっていくと思っている。

総務課長：まず 1 点目のミサイル発射時の Jアラートについて、発生後、役場に職員が集まっていたが、役場内においても TV からの情報収集を行うに留まってしまっていた。現

実問題としても、町内において地下へ避難出来る場所は限られており、避難自体が難しいものであったと感じている。現状として、そういった対応に留まってしまっている事について申し訳なく思っている。

町長：2点目の加工センターについて。子どもたちへ新鮮な地元産の食材を届けるような環境を、というお話だったと思う。現在でも学校給食について、地元産で賄える部分はなるべく地元の食材を使用して子ども達に食べて貰おうと、提供している状況。栗山の評価の高いお米も、子ども達に食べて貰えるような仕組みがある。

色々と加工することが出来たり、栗山町産の製品として更に良いものを提供していく為には、お話しされるような加工センター的なものがなければいけないと思うので、今後も農協等と一緒に、必要性を含めて検討していきたいと考えている。そういった検討を踏まえて、しっかりと地産地消という事を果たしていければなと思う。

町民：肥料の高騰もあり、農家の採算が合わない状況にもなっている。農業は栗山にとって、とても大事だと感じている。いきなり大きな施設を作らなくても良いので、少しずつでも進めて頂きたい。

町民：図書館の活用関係。現在でも図書館で色々なコンテストや賞等を募集しているが、そちらの方にももう少し力を入れて頂ければと思う。只、本を読んでそれで終わりではなく、小さいころから読書に興味を持って貰えれば。

教育長：今おっしゃって頂いた通り、読書については最大限力を入れて行っていきたいと考えている。現在行っていることとして、栗山小学校では読み聞かせのイベントを週1回20年以上行って頂いている。図書館や読み聞かせの会とも連携を取り、良い本の選定も進めてきている。読書感想文等も小学校の取り組みと定期的に参加をしており、そういった取り組みを通して良い環境を整えていきたい。読書の他にも、川柳や俳句等の文化に対しても、町の団体と小学校が連携を取る等して取り組みを進めているところ。

町民：町のビジョンについて。今までもあったと思うが、恥ずかしながら正直知らなかった。栗山町の目指す方向性を多くの方が知っておいた方が良いと思うので、第7次総合計画が始まった際には、皆さんへビジョンが浸透するように分かりやすい形で広報して貰いたい。また、今後計画が進んでいく中で色々な事があると思うが、評価・検証の場面にも町民が参加出来る形があると良いと思う。

もう1点、母が最近車いすを使っている。車いす生活でも、外に出かけると気持ちが前向きになる様子。只、栗山町の街中は、車いすでは中々移動しづらい環境だと感じている。経年劣化で歩道がボコボコしており、かなりの力を使わないと車いすが前に進まない場所があった。こういった部分が変わっていくと、子育て世代にも喜ばれると思う。都市整備を計画する際には、出来るだけ多くの関係者方々に、体の不自由な人や目の見えない人、車いすを使用している人等の体験をして貰って、そういった経験を基に計画を検討して頂けると良いと思う。

町長：ビジョンの関係についてはおっしゃる通りだと思っている。町全体としての目標なの

で、行政関係者だけが知っているのでは意味がない。皆で作っている第7次総合計画なので、完成した際には、町民の皆さんへもビジョンが行きわたるような工夫をしていきたい。評価・検証についても、計画・実施・検証というサイクルをしっかりと回し、せっかく作った計画を作りっぱなしにはしたくない。少しずつ改善を加えながら、1年1年の事業に活かし、計画最終年には皆が目指してきた形になるよう、努力していきたい。

建設総括：道路の関係については、様々な基準がある中で道路整備を行っている状況。栗山町内についてはレンガの歩道もあるので、年数が経つにつれてガタガタになり、車いすが進みづらい部分があると思う。一気に全てを解決は出来ないが、関係者の方とも一緒に調査をしながら、適宜整備を進めていきたいと考えている。

町民：農業分野や災害の関係。ICTやドローン、自動操舵技術等の新しい技術に加え、基盤整備等へも支援をしていただけるのは大変有難い。基盤整備の他にも、排水の整備も行っていただけると尚有難いと思っている。大雨が増えている状況であり、毎年100年に1度の大雨というニュースを耳にしている。ここ何年かでも岩見沢や三笠で1時間に100ミリという大雨が降ることがある。栗山町でそういった大雨が降った場合でも排水整備は問題ないのかという点の見直しと、不安のある場所があれば、整備を進めて頂きたいと思う。

また、新規就農者の受け入れについて。少しでも良い区画、良い土壌で新規就農者を受け入れられるように支援して頂けると嬉しいと感じている。

建設総括：農地用の排水整備に関しては、農地の面積によって基準が変わる等、川の整備とも少し違う面があり中々難しい部分がある。只、近年の大雨で必要性が高まっているのは理解している。町が管理している河川もあれば、国が管理している河川もあるが、危険性がある場所については、連携を取りながら対応していきたい。

産業総括：新規就農者について、農家戸数が減少する中で、町としても担い手の方の受け入れは重要な案件として考えている。ここ10年ほどで20件弱の新規就農者の受け入れを行っており、今後も農業振興公社を中心に関係者で連携を取りながらサポートしていきたい。

町民：先ほど角田幹線排水路の話が出ていたが、先日町内で37ミリくらいの大雨が降った際、橋の30cm近くまで川が増水していた。更に大雨が降った場合は、橋を越えてしまうだろうと思うが、なぜそうなったのか原因が分からない。今年は毎年行っていた草刈りを行わなかったが、そういったことが原因なのだろうか？何か対策について、アドバイスを頂けると有難い。

また、町の計画のチェックについて。先ほどの方も言われていた通り、PDCAサイクルを回しながら、計画を進めていく必要があると私も感じている。

建設総括：角田幹線排水路については、国が所有している施設で町が管理を行うという形になっている。出来たのが昭和30年代～40年代頃となっており、設置した時代の想定と最近の雨の量が変わっている関係で、排水が追い付かないという事も1つ原因として考え

られる。他にも、昔は全て水田だったが、今は半分くらいが畑となっている。水田だと一度雨を溜め込むが、畑だと一気に川に流れるという違いがあり、そういった関係も多少原因としてあるのではと思っている。

いずれにしても古い施設ではあるので、改修の必要性は感じている。国の機関とも協議をしながら、今後も検討を進めていく。大規模な改修をすぐに行うことは難しいが、町で管理している場所なので、土砂の撤去等の維持管理は都度行っていきたい。

町長：おっしゃる通り、PDCA サイクルを回すことは、計画を作るに当たって一番重要なことと考えている。計画を作ってそのままにしておくことはせず、役場内でも担当者、課長級、副町長、町長とそれぞれが1年1年計画の見直しを行い、改善していく仕組みを作っている。また、外部評価委員会というものを設置しており、外部の方からの目でもチェックを行ってもらっている。外部評価委員会では、全ての事業を確認することは現実的に難しいが、重要な部分をピックアップし、こうした方がより良いのでは？といった改善の意見を受けている。そういった内容を反映させ、より良い計画となるよう進めていきたい。

町民：町民参加のまちづくりについて、各施策の形成過程に町民が参加できるとあるが、どこで参加したら良いのか、どこに連絡したら良いのか、詳しく教えて頂きたい。町民皆さんは良い意見を持っていると思う。気軽に意見を言える場がもう少しあれば良いと思う。

町長：7次総合計画の原案を作るにあたって、十分ではないかもしれないが、町民皆さんの意見をなるべく反映出来るように進めてきた。過去のまちづくり懇談会やアンケート、小サークル事のグループインタビュー等で様々な意見を貰い、行政側が今までの事業を検証した結果に、皆さんからの新しい目線での意見を加えたのが、この第7次総合計画だと考えている。なので、この計画だけの話で言えば、町民の意見が盛り込まれているものだと私自身は思っている。不十分な部分もあると思うが、なるべく皆さんの意見が反映された第7次総合計画と思ってご理解頂きたい。

日常的な町民参加については、毎年のもちづくり懇談会、広報やHPにあるキャッチボイス、直接担当の課に連絡して貰う等、様々な場がある。今後もそういった場を町としても提供していきたいと思う。